

(仮称)市民サポーターズ制度の検討状況について①

デジタル活用等により参加のハードルを下げる、市民が継続的に関わりなくなる仕組みを検討

市民サポーターズ制度(第5次市民自治推進会議答申より)

市民サポーターズ制度とは	市民や団体がサポーターとして市に登録。定期的にアンケートに協力し、結果のフィードバックを受けることで政策形成に継続的に参加したくなる仕組みとして、第5次市民自治推進会議の答申において提言されたもの。
目的等	<p>積極参加層の継続的な参加を促すとともに、サイレントマジョリティが市政に意見を表明するためのきっかけとなるもの。</p> <p>参加の負担を軽減するために、デジタルツールを活用して、オンライン上で情報共有や意見提出を行うことのできる環境づくりをする。</p> <p>登録者のモチベーション維持のため、様々な形式のインセンティブを用意することが望ましい。</p>
答申に基づく実施イメージ	①様々な媒体で周知→②アンケート(テーマに関する情報も提供)、市民委員公募、ワークショップなどの情報を配信→③結果をフィードバック→④回答数等に応じたインセンティブの付与

現状のデジタルを活用したアンケートの課題と目指す姿

⚠ 現状の課題

- 結果を知る機会が少ない
調査をした媒体で必ずしも結果が公表されているわけではない(HPでの周知はある)
- 統一的な運用ルールがない
実施の際の基本的な考え方や目的・効果などが未整理(各課が独自に実施)
- 単発的な参加
テーマに関心の高い方が単発的に参加する傾向(さらなる参加につながらない)
- モチベーションの低下等
「回答疲れ」の恐れ、各部署においてインセンティブの付与に差がある(予算の制約)

目指す姿

- フィードバックの充実
調査依頼を行った媒体をはじめ、さまざまな媒体で結果が公表されている
- 共通ルールの構築
手法の目的や効果などが整理され、全庁で共通のルールがある
- 継続的な参加
年間10回のアンケート等、定期的で多様なテーマの参加機会や情報の提供
- モチベーションの維持
「また参加したい」と思っていただけの工夫がある



まずは基盤を整備し、より市民にとって利便性の高い仕組みの構築を目指す

STEP1(R7~)

アンケート結果を効果的にフィードバックを行なう工夫の検討・試行

例えば、LINEのアンケートを行う際に結果の公表方法・時期等を併せてお知らせする等の工夫を検討し、試行する

STEP2(R8~)

ガイドラインにおける現行ルールの整理

(仮称)市民参加推進ガイドラインの中で、市民参加の観点から、左記を含めた各種手法のルール等を整理する

STEP3(R8以降)

全庁的な行政サービスのスマート化の状況も踏まえ、利便性の高い仕組みを構築

より利便性が高く、参加したくなる方法を模索し、継続的な市政参加、政策への納得感の醸成を目指す



既存手法のフィードバックの充実
結果の公表方法を個別に改善



(未)共通ルールの構築
課題: ルールの全庁的な検討・整理



(未)サポートーズ制度の実施
課題: 媒体の選定、予算等



既存手法のフィードバックの充実
結果の公表方法を統一



共通ルールの構築
各種手法のルール等の整備



(未)サポートーズ制度の実施
検討課題: 媒体の選定、予算等



既存手法のフィードバックの充実
結果の公表方法が定着



共通ルールの構築
ルールのさらなる浸透を図る



サポートーズ制度の実施
継続的な参加、政策の納得感の醸成